

Asia Good ESD Practice Project (AGEPP-2)

コミュニティ学習センター ～ESDを届けるしくみ

事例研究

[A] 概要

ネパール学校外教育リソースセンター（NRC-NFE）は、「2002～2005年ルパンデヒ・カピルバストゥ地区識字と学校外教育プロジェクト（R&Kプロジェクト）」（後に「2005～2006年ネパール王国ルパンデヒ・カピルバストゥ地区世界寺子屋運動（WTM）事業の一環としてのルンビニ・コミュニティ学習センター・プロジェクト（ルンビニCLCプロジェクト）」と名称を変え1年延長）について、ここに報告できることをうれしく思う。この報告は、基本的にR&KプロジェクトとルンビニCLCプロジェクトの活動と成果に関するものである。また、コミュニティ学習センター（CLC）、識字・識字後・学校外プログラム（OSP）教室、保健活動、所得創出と技能研修、環境管理を伴う地域開発など、プロジェクトの活動が、いかに効果的に村へ変化を及ぼしたかという点にも触れる。さらに、識字や教育に対する考え方の変化、地域の環境の変化、地域住民の行動や生活の質の変化、CLCを持続的に運営していくためにプロジェクトやCLCがどのような方策をとったかの評価にも言及する。

世界寺子屋運動（WTM）は、NGOや他の地域団体への支援を通じて人々に教育を届ける全世界的な取り組みである。

NRC-NFEは日本ユネスコ協会連盟の支援を受け、2002年4月から3年間「R&Kプロジェクト」を実施し、さらにその後「ルンビニCLCプロジェクト」と名前を変えて1年間延長、2006年4月15日、成功をおさめ終了した。

プロジェクトが実施された4年の間、識字・OSP・識字後教室、所得創出、環境の持続可能性、地域開発活動、ヘルス・キャンプ（移動健診）など、様々なプログラムがおこなわれ、当初期待された目標や到達点以上の成果が得られた。CLCの考え方が、政府、ユネスコや他のNGOにも広がり、地域住民の関心も高まっている。また、いろいろな機関がCLCのしくみを通じて活動を展開していくことに強い関心を寄せるようになった。さらに、住民の間には、より実質的なニーズに応え生活を支えるプログラムを求める期待も高まっている。地域の人々が自らCLCを運営していこうとする体制が徐々にでき、持続的な運営への自信も高まってきている。

このプロジェクトは、地域の人々がCLCを自ら設置し運営していくことが、いかに人々の学び、力づけにつながり、所得水準を上げ、生活の質（健康、環境、社会保障）を高めるかと

いうことを示した。CLCは「人々のための・人々による」をテーマに、地域住民の生活の質を高め地域の発展に寄与するため、人々の学びのニーズにこたえる地域の教育機関である。だからこそ「学び・得る」「共に生きる」がCLCのモットーになっているのであって、CLCはボトムアップのアプローチそのものなのだ。地域の人々は、地域の資源や自分たちが直面している課題、さらにはその解決方法についてもよく知っている。そこで、CLCは、生活の質を高め地域を発展させるという人々のニーズにもとづいて、企画や事業を準備し実行する。このようにして、CLCは、地域の人々に持続可能な開発のための教育を提供する役割を、とても効果的に担ってきた。CLCと地域の人々が一緒になって、将来の生活のため、そして持続可能な開発を実現するため、地域の持続的な発展に取り組んできたのだ。

ネパール政府とユネスコ・カトマンズ事務所も、このプロジェクトをモデルに事業を展開している。政府は2006年までに205のCLCを設立し、2007～2008年中にさらに300ヶ所設立することを目指している。こうした動きのなか、NRC-NFEはネパール政府やユネスコ・カトマンズ事務所、他の国内NGOが設置するCLCの支援をおこなっている。例えば、CLCリーダーや他のスタッフへの研修や、研修・学習教材の提供、CLCプログラムの評価などがそれである。

以下、CLC活動を撮影した写真からいくつかを紹介する。

文章を読むOSP学習者

Rajpur CLCの建物

教室活動に参加する成人学習者

収入を得るための魚養殖

収入源としての野菜栽培

ヘルス・キャンプ（移動健診）で患者を診察する医師